

SALAMANCA HALL 2015.9.11 (Fri) ~ 9.13 (Sun) ぎふ 秋の音楽祭 2015 [現代音楽の日]

Electroacoustic Music Festival

サラマンカホール 電子音響音楽祭

会場 サラマンカホール ふれあい福寿会館
岐阜県図書館 岐阜県美術館

【出演/出品】

ピエール・アンリ / 檜垣智也 / 足立智美 / リチャード・バレット
川崎弘二 / 多井智紀 / 有馬純寿 / 沼野雄司 / 小坂直敏 / 安藤大地 / 中村滋延
高岡明 / 福島諭 / マルク・バティエ / 水野みか子 / 宮木朝子 / フォルマント兄弟
大久保雅基 / 門脇治 / 佐藤亜矢子 / 土屋雄 / 中川善裕 / 林恭平 / 渡辺愛 他 (順不同)

フェスティバル・ディレクター

三輪真弘

主催：サラマンカホール、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]
共催：日本電子音楽協会 [JSEMA]、先端芸術音楽制作学会 [JSSA]、
岐阜県図書館、岐阜県美術館
協力：SON/RE
助成：公益財団法人 かけはし芸術文化振興財団
機材協力：九州大学感性融合サイエンスセンター、
名古屋市立大学芸術工学部
制作協力：有限会社ナヤ・コレクティブ

歴史・現在・子供たちへ



サラマンカホール電子音響音楽祭

電子音響音楽は電子技術を用いた「音による表現」のすべてを表す言葉です。もしそうならば、海辺で録音した潮騒も、工夫をこらした放送劇も電子音響音楽と呼ぶのでしょうか？ そうかもしれませんし、ちがうかもしれません。電子技術によって音響を自在に生成、加工、録音再生できるようになった今日、そこで問われているのはつまり人間にとっての「音楽とは何か？」なのです。

「歴史・現在・子供たちへ」というキーワードを掲げたこの音楽祭では、その問いに対する「応答」が様々な形の(音楽)作品として、さらに研究者たちの言葉として示されます。それは芸術・音楽が伝統的な芸芸のみで支えられてきた過去から、不断の電力供給を前提とする未来社会へと続いていく「今」を驚きと感動と共に体験するま

たとなない機会になるでしょう。

長良川のほとりに位置する美しい響きを誇るサラマンカホールで過ごす週末の3日間、海外からのゲストも交えた様々なイベントを通して、私たちはネット上のサイバースペースではなく、音楽が生まれる「いま・ここ」の価値と意味を問い直します。たとえば、高度な技術によって作られた歴史的にももっとも古い楽器であるパイプオルガンが、最新のテクノロジーを用いた電子音響と共に私たちに何を語りかけるのか、ゆっくりと耳をそばだててみてください。

フェスティバル・ディレクター
三輪 眞弘

チケット [全席自由]	
セット券	<p>一般 6,000円 [サラマンカメイト 5,400円](限定100セット)</p> <p>セット内容</p> <p>9/11「ピエール・アンリ 音の芸術 ポートレイト・コンサート」 9/12「響きあうバロックと現代」 JSEM第19回演奏会 9/12「テクノロジーと「作曲」の未来」 JSSA/JSEM スペシャル・コンサート 9/13「奏でる(無)身体」 リチャード・バレット×足立智美</p> <p>ふれあい福寿会館サービスセンター窓口または電話のみ取扱 ※状況によって販売終了となる場合がございます。予めご了承ください。</p>
9/11 Fri	<p>ピエール・アンリ 音の芸術 ポートレイト・コンサート</p> <p>一般=2,000円 [サラマンカメイト 1,800円] 大学生=1,000円(30歳まで・学生証要提示) 高校生以下 無料(申込制・先着50名まで)</p> <p>ローソン [Lコード] 47667 チケットぴあ [Pコード] 264-317</p>
9/12 Sat	<p>“響きあうバロックと現代” JSEM第19回演奏会</p> <p>一般=2,000円 [サラマンカメイト 1,800円] 学生=1,000円(小学生~大学生 30歳まで・学生証要提示)</p> <p>ローソン [Lコード] 47668 チケットぴあ [Pコード] 264-319</p>
	<p>“テクノロジーと「作曲」の未来” JSSA/JSEM スペシャル・コンサート</p> <p>一般=2,000円 [サラマンカメイト 1,800円] 学生=1,000円(小学生~大学生 30歳まで・学生証要提示)</p> <p>ローソン [Lコード] 47669 チケットぴあ [Pコード] 264-320</p>
9/13 Sun	<p>“奏でる(無)身体” リチャード・バレット×足立智美</p> <p>一般=2,000円 [サラマンカメイト 1,800円] 大学生=1,000円(30歳まで・学生証要提示) 高校生以下 無料(申込制・先着50名まで)</p> <p>ローソン [Lコード] 47670 チケットぴあ [Pコード] 264-315</p>
チケットのお求めは	<p>ふれあい福寿会館 サービスセンター [受付9:00~] TEL 058-277-1110</p> <p>ローソンチケット(ミニストップでも扱っております) TEL 0570-084-004</p> <p>チケットぴあ TEL 0570-02-9999</p> <p>インターネット予約 https://www.shisetsuyoyaku-gifu.jp</p> <p>※未就学児のご入場はご遠慮ください。 ※高校生以下無料のお申し込みは、eams2015@gifu-fureai.jpまで直接お申込みください。</p>
発売日	<p>サラマンカメイト先行発売日 6月4日(木)</p> <p>窓口=9:00~ 電話=10:00~ インターネット=翌0:00~</p> <p>一般発売日 6月12日(金)</p> <p>窓口=9:00~ 電話=10:00~ インターネット=翌0:00~</p> <p>※ ローソンチケット、チケットぴあ 同時発売</p>

交通アクセス



サラマンカホール: 岐阜市藪田南 5-14-53 / 岐阜県図書館: 岐阜市宇佐 4-2-1 / 岐阜県美術館: 岐阜市宇佐 4-1-22

- 公共交通機関
- 東京方面 東京-名古屋:新幹線で100分
JR 東海道本線・名古屋駅から西岐阜駅まで約23分
 - 大阪方面 大阪-米原:新幹線で40分
JR 東海道本線・米原駅から西岐阜まで約50分(大垣駅で乗り換え)
 - JR 岐阜駅(北口)より「岐阜バス」で約20分
 - 名鉄岐阜駅より「岐阜バス」で約25分
 - JR 西岐阜駅(南口)より「西ぎふ・くるくるバス」で約12分
- 自動車
- JR 東海道新幹線・岐阜羽鳥駅および名神高速道路・岐阜羽鳥ICより車で約20分
 - ※無料駐車場あり

特別ウェブサイト、SNS

音楽祭の最新情報は、ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.iamas.ac.jp/eams2015/>

@eams2015_gifu Facebook ページ
「サラマンカホール電子音響音楽祭」で検索

サラマンカメイトのご案内

- ・チケットの先行発売
- ・チケットの割引(1公演2枚まで)
- ・ダイレクトメールによるコンサートのご案内
- ・サラマンカホールグッズコーナーでの割引
- ・500シリーズ公演のチケットプレゼント
- (平成27年度限定特典)

※お電話でもお受けしています。入会申込書をご郵送いたします。※年会費2,000円
※入会申込書はサービスセンター(ふれあい福寿会館2F)にご用意しています。

14:00~

響きあうバロックと現代

日本電子音楽協会 第19回演奏会

18:30~

テクノロジーと「作曲」の未来

JSSA/JSEM スペシャルコンサート

主催：日本電子音楽協会 (JSEM)
先端芸術音楽創作学会 (JSSA)
共催：サラマンカホール

JSEM 会長よりごあいさつ

1992年に作曲家、研究者、技術者らによって設立された日本電子音楽協会（JSEM）は、日々刷新されるテクノロジーと音楽／芸術との新しいあり方を社会に問い続けてきました。そして毎年行われてきた定期演奏会はもとより、2013年に開催された創立20周年記念事業「時代を超える電子音楽」コンサートとシンポジウム、若手会員の活動を紹介する新企画「電子音楽なう！」シリーズなど、近年さらにその活動の幅を広げています。

サラマンカホール電子音響音楽祭では、JSEM 第19回演奏会“響きあうバロックと現代”と先端芸術音楽創作学会（JSSA）と共催するスペシャルコンサート“テクノロジーと「作曲」の未来”という2つのコンサートが行われます。そこでは、サラマンカホールが誇るパイプオルガンやホールの美しい響きを活かした新作初演を含む、会員の作品が一堂に集められ、発表されます。

電子音楽、ミュージック・コンクレート、コンピュータ音楽、アコースモニウムなど様々な名で呼ばれてきた「電子音響音楽」は、今や特殊なものではなく、望めば誰もが実践できる身近な「音楽」になりました。そこで問われているのは、作曲家たちが新しいテクノロジーを「使った」音楽を創れるかどうかではなく、新しいテクノロジーの「中で」音楽そのものを新たに定義し直すことができるかどうかの違いありません。「今まで」の音楽のために設計されたクラシック専用のホールと「これから」の音楽がどのように結び合うのか、作曲家たちからの多様な答えにご期待ください。

日本電子音楽協会（JSEM）会長 三輪眞弘



JSSA 会長よりごあいさつ

2009年6月に発足した先端芸術音楽創作学会 (JSSA) は、電子音響音楽、コンピュータ音楽、あるいはソニックアーツなど、時代や文脈でさまざまな名で呼ばれる先端芸術音楽を対象にしています。JSSA は音楽研究発表中心で、コンサートを活動の中心とする JSEM とは、これまで共同でイベントを開催したことはありませんでした。昨年夏、三輪さんからこの音楽祭への参加について JSSA に声をかけていただき、このたびサラマンカ電子音響音楽祭に JSSA ならびに JSEM が共催できることは大変喜ばしいことです。

この音楽祭では、それぞれの会が独立して進めているコンサートやイベントがありますが、12 日夜の JSSA/JSEM スペシャル・コンサート“テクノロジーと「作曲」の未来”では、出品者が両団体から半々ずつ関わり、文字通りの共催イベントとなっています。

この他 JSSA 関連のイベントとして、1 楽曲をデモしながら解説するレクチャーコンサート、JSSA 研究会、EMSAN 研究会の共催、IC シンポジウムなどがありますので、時間が許せば是非ご参加ください。最後に会の開催にあたり、ご尽力いただいたサラマンカホール井上 周様はじめ関係者の皆様に感謝いたします。

先端芸術音楽創作学会 (JSSA) 会長 小坂直敏



響きあうバロックと現代

JSEM 第19回演奏会
2015年9月12日(土) 14:00~

大久保 雅基

はーもないぞう

音栓助手：今村初子
大久保雅基

林 恭平

刺青

オルガン：石丸由佳

佐藤 亜矢子

八月、青い緑

中川 善裕

The seven seas and the sun for electroacoustics

渡辺 愛

Moderato cantabile

オルガン：石丸由佳

門脇 治

愛 - 挽歌 - 残響 2.1

オルガン：今村初子

土屋 雄

I have not but I am and as I am, I am ...

オルガン：石丸由佳

テクノロジーと「作曲」の未来

JSSA/JSEM スペシャルコンサート

2015年9月12日(土) 18:30~

福島 諭

春、十五葉

オーボエ：山口裕加
クラリネット：鈴木生子、伊藤めぐみ
櫻田はるか
アルト・サクソフォン：濱地潤一

宮木 朝子

Unbuilt Place- 未構築の場所

オルガン：室住素子

高岡 明

Responsorium

ソプラノ：さかいいいしう

水野みか子

das dash!

オルガン：室住素子

三輪真弘 + フォルマント兄弟

フォルマント兄弟の、G・B・ペルゴレージ作曲

「悲しみの聖母」オルガン伴奏版

+

独唱曲「訪れよ、わが友よ」&「新しい時代」

オルガン：今村初子
ソプラノ：さかいいいしう
MIDI アコーディオン：岡野勇仁

Marc Battier

箏と電子音響のための *Constellation 2*

箏：野村祐子



大久保 雅基

Motoki Ohkubo

1988年宮城県仙台市出身。洗足学園音楽大学 音楽・音響デザインコース卒業。情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) メディア表現研究科 修士課程在籍。松尾祐孝氏、森威功氏、三輪眞弘氏に師事。テクノロジーを通して、音楽の形式を再構築する作品を制作。国内外のコンサートで上演、展示されている。日本電子音楽協会、先端芸術音楽創作学会会員。

は一もないぞう

このコンサートでは電子音楽が上演される。しかし、この作品ではパイプオルガンのみで演奏され、電子音を一切使用していない。パイプオルガンは鍵盤とペダルで演奏できるだけでなく、左右にある音栓を操作すると音色を変えることができる。これはシンセサイザーの加算合成の仕組みとよく似ている。そのような楽器に電子音を加える必要はないと思い、パイプオルガンだけの作品を作ることにした。各音栓を数値化し、次に操作される音栓や拍などが計算によって導かれ、演奏者はそれに従い演奏する。この計算を使用した作曲法は電子音楽の考え方であるので、この作品は生演奏による電子音楽作品と言えるだろう。



林 恭平

Kyohei Hayashi

1984年福井県で生まれる。2012年、大阪芸術大学大学院作曲コース修了。文学性に溢れた電子音響作品は、国内外で多数、入賞、入選を果たし、高い評価を得ている。また、音楽作品だけに限らず、現代音楽に伴う映像作品、デザインなども手掛けている。

主な受賞・入選歴：

Prix Russolo 2015 第1位入賞

Contemporary Computer Music Concert
2011 MOTUS 賞

International Computer Music Association
2013 入選

刺青

「刺青あり！」この作品『刺青 (しせい)』は、2014年に大正琴と鉄琴と電子音響にて初演した『蝶』を『刺青』と改名し直した作品である。しかし、ただ単に改名だけを行ったという理由ではなく、電子音響音楽のパートは『蝶』に使用されたそのままに、生楽器のパートを新たに書き直した。つまり、パイプ・オルガンのパートは全くの初演である。『刺青』は4つの部分に分かれており、パイプ・オルガンにより奏でられる旋律は、メシアンの「移調の限られた旋法第三番」を用いている。女の身体に巨大な蜘蛛の刺青が出来上がる様を見よ！



佐藤 亜矢子

Ayako Sato

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程在籍。電子音響音楽の作曲と研究を中心に活動。FUTURA、WOCMAT、NYCEMF、SMC、ICMC、ISSTC、ISMIR 等の国際学会や音楽祭で作品上演。国際電子音響音楽ヤング・コンポーザーズ・アワード 2012 第三位、2013 佳作 (台湾)、Destellos Competition 2013 佳作 (アルゼンチン)、プレスク・リヤン賞 2013 第三位 (フランス)、東京藝術大学大学院アカンサス音楽賞受賞。先端芸術音楽創作学会運営委員、日本電子音楽協会会員、国際コンピュータ音楽学会会員。
<http://asiajaco.com>

八月、青い緑

2015 年 8 月越後妻有アートトリエンナーレにて、東京藝術大学とパリ国立高等美術学校による国際共同プロジェクトの一環として実施されたパフォーマンス・イベント「nature and me」。そこに至るまで多くの衝突を繰り返しながら、私は音を媒体として沢山の芸術家たちと場を重ねた。《八月、青い緑》は、このイベントの為に創作した音楽の断片や、活動の過程で録音した音など、本プロジェクトにまつわる音素材のみを用い、発芽からフィナーレまでの道筋をもう一度辿りながら、改めて自身の解釈による「nature and me」を音楽的に再構築した電子音響音楽作品である。



中川 善裕

Yoshihiro Nakagawa

北海道教育大学札幌校、東京芸術大学音楽学部作曲専攻、東京芸術大学大学院修士課程 (作曲) 卒。これまで作曲を木村雅信、南弘明、黛敏郎、林光の各氏に師事。電子音楽を南弘明氏に師事した。長谷川良夫賞受賞、第 58 回日本音楽コンクール作曲部門入選、第 25 回交響楽振興財団作曲賞入選・奨励賞受賞。現在、埼玉工業大学人間社会学部情報社会学科教授。日本電子音楽協会、日本作曲家協議会、先端芸術音楽創作学会、各会員。

The seven seas and the sun for electoroacoustics

この作品は、各地で採集した波音と電子音響の交錯する超自然的な音響世界を構築することを意図した作品 Variation of the sea (2014 年初演) の続編である。海の波音は、絶えることなく変化し続ける理想的な音楽形式のひとつであると同時に、人間の聴覚や皮膚感覚を刺激する豊饒なノイズでもある。この豊かな音響の断片化処理されたものを、FFT 解析の結果に基づくスペクトル合成、またスペクトル分割された音響のオートマティックな音源移動による空間化等を行い、現実には無い”海”のヴァリエーションを構築していった。



渡辺 愛
Ai Watanabe

作曲家。2011 年迄パリ在住。東京藝大博士課程在籍。
<http://aiwatanabe.tumblr.com>

Moderato Cantabile

“いい、もう絶対忘れちゃだめよ。モデラートは普通の速さでって意味。そしてカンタービレは歌うようになって意味よ。簡単でしょ？”

パイプオルガンとアコースモニウムのための「モデラート・カンタービレ」は、マルグリット・デュラスの同名の小説から着想を得ている。

—風が常に吹きつける、フランスの退屈な田舎町。女は息子にピアノを習わせている。ある日、殺傷事件を目撃し、酒場に通うようになる。一人の男と事件について話すたびに、女の日常は少しずつ、酩酊するように崩れていく。—

ここで崩壊するのは女の内面であって、表面上はいたって穏やかな時間が流れる。普通の速さで船が行き来し、規則正しくサイレンが鳴る。この町の、ひっきりなしに風の吹くさまを、パイプオルガンになぞらえてみたくなった。

初めてサラマンカホールを訪れたときはその広さ・天井高に圧倒されて豪華絢爛なサウンドを想像していたが、実際にオルガンの音を聴いてみるとむしろ素朴さや内省的な面が印象に残った。

風と波のまにまに、女は酔いに飲み込まれていくが、テキストは物語の順番を踏まずに切れ切れに編まれていく。



門脇 治
Kadowaki Osamu

1964 年生まれ。宮城教育大学および同大学院にて作曲を故本間雅夫・吉川和のの両氏に師事。電子音楽に関してはほぼ独学。
現在、日本電子音楽協会、日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、宮城県芸術協会会員。

愛 - 挽歌 - 残響 2.1

残響 2. 1 というのは、サラマンカホールのことであり、このホールとオルガンに思いを馳せた題名である。

作曲の方向性は、バロック時代のテクノロジーを駆使したオルガンの音色と、現代のコンピュータにオルガン的な発想で作らせた音が、ホールを満たしていくというコンセプトに基づく。

演奏は、互いの音や響きを聴き合いながら進める。即興的であり、楽譜には不確定な要素が多い。

オルガンとコンピュータが有機的に（必ずしも心地よいというわけではなく）絡み合い、一つの大きなうねりとなることを望んでいる。



土屋 雄

Takeshi Tsuchiya

東京音楽大学大学院修了。作曲を湯浅譲二、池辺晋一郎、西村朗の各氏に、指揮を三石精一氏に、オンドマルトノを原田節氏に師事。また IRCAM (フランス国立音響現代音楽研究所) で先端芸術表象と電子音響音楽を学ぶ。第 13 回現音作曲新人賞、第 66 回日本音楽コンクール作曲部門に入選。2008 年度ヴァレンチノブッキ国際作曲賞 (ローマ) 審査員特別賞を受賞。日本音楽集団、CDMC 委嘱作品の他、主要作品は NHK-FM 等でも紹介されている。また電子音楽分野では自作品の他、細川俊夫氏のオペラ「MATSUKAZE」で電子音響パートを担当する他、多くの作曲家の作品制作も担当している。
現在、東京音楽大学大学院准教授。

I have not but I am and as I am, I am...

オルガンと多チャンネル電子音響のための作品。

この作品では、先ず音楽のテクスチャーをオルガンの管ごとに独立 (単数管という意味ではない) させることから再構築する。そしてそこから生まれる音、或いは音楽は、ある種の対位法として聴くことさえできる。しかし作曲の技法として用いられる対位法で聴かれる曲が音楽構造の構築を主眼においていることに対して、この作品ではそれぞれの管ごとに発生した音が他に転写したときに織り成す微細な変化を作品化することを目的としている。それらの変容は結果、パレストリーナ等の音楽に於ける対位法が現代の感覚により転写されたものとして観客にもたらされるであろう。





福島 諭

Satoshi Fukushima

1977 年新潟生まれ。作曲家、演奏家。新潟大学教育学部特別教科（音楽）教員養成課程卒業。IAMAS 修了。

2002 年よりコンピュータ処理と演奏者との対話的な関係によって成立する楽曲を発表。即興演奏とコンピュータによる独自のセッションを試みるバンド、Mimiz のメンバー。また、濱地潤一氏との共同作曲作品《変容の対象》は 2009 年元日より開始され現在も進行中である。第十八回文化庁メディア芸術祭「アート部門」優秀賞など。日本電子音楽協会会員。作曲を三輪眞弘氏に師事。

春、十五葉

春は予感に満ちた季節である。

人は時に何かを予感することがあるものの、しかし私はそれが一体どのような仕組みによって生じるのかについて答えることができない。いつ、何を予感し、それは未来にどう影響し得るのか。これからの未来に対して決して楽観的にはなれないものを感じている今、まずこの「予感」について思考を深める必要性を強く感じている。

その意味で本作《春、十五葉》('15) は「予感の構造」についての楽曲である。アルト・サクソフォン、3つのクラリネット、オーボエによるアンサンブルとコンピュータのリアルタイム音響処理によって形作られる。



宮木 朝子

Asako Miyaki

桐朋学園大学音楽学部作曲専攻、同研究科卒。現代音楽協会作曲新人賞、秋吉台国際作曲賞佳作入選。国立天文台 4 次元デジタル宇宙プロジェクト 3D 映像の音楽担当 (Siggraph2007 エレクトリック・シアター入選)。近作に感覚ミュージアム常設インスタレーション <<Shadow Rays 2013>>(コンセプト・映像：奥村理絵)、光像・音像・香像による Opera acousma#2<<Teleceptor>>、video acousmatic<<残像花>>(映像：馬場ふさ子/Full dome Festival 2015Blau Blume Award 受賞) など。現在洗足学園音楽大学、早稲田大学の講師を勤めつつ、東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻修士課程(表象文化論)に在籍し、聴覚・視覚空間の触覚性をめぐる研究をおこなう。

Unbuilt Place- 未構築の場所

パイプオルガンは器官 (organ) の声を発し、同時に「封じ込められた歌」としての聖歌が電子的加工を経て空間投影される。その歌の原型から抽出された音程、音響がオルガンのパッセージへと変換される。空虚な場に投影される音の虚像が生み出す未構築の場所での儀式として、5つの断章が接続される作品。



高岡 明

Akira Takaoka

作曲家、音楽理論家、コロンビア大学大学院音楽科 Research Associate。現在、中央大学理工学部大学院、テンプル大学日本校、東京電機大学未来科学部、東京藝術大学大学院音楽研究科にて音楽理論および作曲を教える。慶応義塾大学文学部哲学科、同大学院文学研究科哲学専攻博士課程修了。フルブライト奨学生としてコロンビア大学大学院博士課程に留学し PhD を取得。自動作曲プログラムの作成と作曲、無調理論および音楽認知の研究を専門とする。

Responsorium

この曲では単旋律聖歌の旋律と 12 音和声の統合を試みた。曲は和声が変わらない“Versus”セクションとピッチクラス集合の変換が連続する“Cantus”セクションが交互に 3 回繰り返される。最後の Versus セクションでは、複雑な和声の聴取を容易にするため、リンデンマイヤー・システムによって自動生成されたパターンが用いられている。ピッチクラス集合の生成と変換および運声のアルゴリズムは私が書いた Java プログラムに実装され、そのプログラムが曲全体を自動生成した。音響合成・処理は RTcmix によって行なわれる。

Responsorium は 2009 年に東京で初演され、その後、ロンドン、ニューヨーク、ザグレブ、コペンハーゲン、ミネアポリス、シンシナティなどで再演された。



水野 みか子

Mikako Mizuno

作曲と音楽学の分野で活動を展開し、作品や論文を海外でも多数発表している。2011-2013 年、カナダ、ニュージーランド、シンガポール、中国、台湾と結んで高速度音響通信による「ネットワークコンサート」を実現。近作に、《尺八、箏とオーケストラのための「レオダマイア」》、ヴァイオリン、フルートとコンピュータのための《Aksaray》(2013)、IanniX のための《Trace the City》(2014)、三人の奏者のための《かげぎじゃないかげぎ》(2015) などがある。名古屋市立大学芸術工学部芸術工学研究科教授。

das dash!

サラマンカホールの美しいオルガンの音色が、セリ一的に反復されるリズム・モードに色彩を与える。タイトルにある 4 つのアルファベットは、もちろん音名に対応させることができるが、私にとって大切な人への励ましの言葉でもある。音色を作っていく作業には、一義的に記号化できる要素と、極めて直感的で肉感的な要素が同居している。素晴らしき音色クリエイターでもある室住素子さんのご協力を得て、オルガンと電子音響、二つのめくるめく音響空間を行き来し、作品を仕上げる事ができた。室住さんに感謝いたします。



三輪 眞弘
Masahiro Miwa

1958年東京生まれ。ベルリン芸術大学、ロベルト・シューマン音楽大学で作曲を学ぶ。アルゴリズム・コンポジションと呼ばれる手法で数多くの作品を発表。旧「方法主義」同人。「フォルマント兄弟」の兄。IAMAS（情報科学芸術大学院大学）教授。



フォルマント兄弟
Formant Brothers

「フォルマント兄弟」は、三輪眞弘（兄）と佐近田展康（弟）による父親違いの異母兄弟によって2000年に結成された作曲および思索のユニット。テクノロジーと芸術の今日的問題を《声》を機軸にしなから哲学的、美学的、音楽的、技術的に探求し、21世紀の《歌》を機械に歌わせることを目指して活動中。

フォルマント兄弟の、G・B・ペルゴレージ作曲 「悲しみの聖母」オルガン伴奏版

2013年に制定されたMIDIアコーディオンによる人工歌唱のための「兄弟式国際ボタン音素変換標準規格」はいよいよ「国際」という名に相応する多言語への拡張に挑戦した。18世紀珠玉の名曲を人間と人工音声の二重唱で歌う。聖母の如く音楽に跪きその死を悼むオルガン伴奏版初演である。

独唱曲「訪れよ、わが友よ」 & 「新しい時代」

2000年に発表された、三輪眞弘作曲、前田真二郎演出のモノローグオペラ「新しい時代」より抜粋。ネット上に流れる謎の旋律を神からのメッセージだと信じるカルト教団の歌。

日本電子音楽協会 (JSEM) について

1953年にドイツ・ケルンの放送局において音楽史上初めての電子音楽が公開されてからすでに半世紀が経過しました。その間に「電子音楽」という言葉は電子技術を用いた音楽／作曲のまったく新しい領域を夢見た当時の歴史的な作品や理念を示す用語として使われるようになり、現在それらは、コンピュータ音楽、エレクトロ・アコースティック・ミュージック、さらにはメディア・アートにおける一領域としてのデジタル・ミュージックと呼ばれるようになっていきます。

日本電子音楽協会は、電子音楽が生まれた当時の夢を21世紀の音楽芸術における新しい可能性へと広げべく1992年に設立され、以来、作曲家、研究者、技術者らが集い、世界的視野に立った活動を行ってきました。それはまた、アナログ技術によって生まれた「電子音楽」から、デジタル技術によるまったく新しい形の「電子音楽」の可能性を切り拓く挑戦でもありました。ポピュラー音楽においてもまた、コンピュータをはじめとするデジタル機器を用いた作曲・演奏がごく日常的なことになっている現在、日本電子音楽協会は、様々な専門分野の交流を通して、日々刷新されるテクノロジーと音楽／芸術の新しい関係を私達の社会に提案していく場として活動を続けています。

(<http://jsem.sakura.ne.jp>)



マルク・バティエ
Marc Battier

パリ・ソルボンヌ大学教授、および北京のデ・タオ電子音響音楽大学院教授。カリフォルニア大学サンディエゴ校およびアーヴィン校、モントリオール大学、ベルリン芸術大学の客員教授、IRCAM ドキュメント部長等を歴任。電子音響音楽作品とミクスト・ミュージック作品が、アジア、ヨーロッパ各国、合衆国で上演されている。カリフォルニアのオーケストラに委嘱された「管弦楽のための《Rain Water》」が2014年にヴェトナム国立交響楽団によって再演された。

フランソワ・バイルのもと、GRM で働いたのち、IRCAM でブーレーズ、ライヒ、シュトックハウゼン、ケージ、アンリ、湯浅らと研究・創作に携わった。電子音響音楽に関する東アジア、東南アジアの研究ネットワークである EMSAN を設立。電子音響音楽研究ネットワーク EMS(WWW.EMS-NETWORK.ORG) をリー・ランディ、ダニエル・テルッジと共同設立。1992年には、パリの音楽博物館のために20世紀の電気・電子楽器コレクションをデザイン。ORGANISED SOUND 編集委員、LEONARDO MUSIC JOURNAL 名誉編集委員。フランスの音楽学研究所 (UMR 8223) メンバー。JSSA 在外国メンバー。

箏と電子音響のための *Constellation 2*

Constellation 2 は、私にとって日本の楽器の3番めの作品であり、アジアの楽器のための5番めの作品である。これまでに、尺八や、中国のピパ（琵琶）、グチン（古琴）のための作品を作曲した。

生楽器の演奏家とエレクトロニクスのために作曲するとき、私はいつも楽器と演奏家を前面に出したいと思っている。エレクトロニクスは、元来、生楽器に寄り添って反応するものという性格を持っているが、しかしそれでも、エレクトロニクスがソロのようになり演奏者がその音に耳を傾けるという場面もしばしばある。

2012年ヴァージョンの *Constellation* と同様、電子音響素材は、あたかも画家が空に雲を描くかのように作曲された。雲の向こうには外的宇宙と銀河があり、未知なる世界の星座がある。箏は人間活動を表しており、あるときは調和し、またあるときは混沌としており、あるいはまた、暴力的なことも、甘く穏やかなこともある。

電子音響素材は箏の音を処理したサウンドに基づいており、音色やテクスチャの面で、常にライブ演奏と対話を続けている。従って、私にとってエレクトロニクスは箏の拡張のようなものである。

先端芸術音楽創作学会 (JSSA) について

先端芸術音楽創作学会は、通常 JSSA (Japanese Society for Sonic Arts) といい、2009年6月に発足しました。この学会では、電子音響音楽、コンピュータ音楽、あるいはソニックアーツなど、時代や文脈でさまざまな名で呼ばれる先端芸術音楽を対象にしています。年に4回の研究会開催の他、音楽情動研究会、インターカレッジ運営委員会、音楽学委員会、などの活動があります。これらの活動を会報にまとめ、また、別途論文誌なども作成予定です。会員は作曲家のほか、音楽学研究者、音楽心理研究者などで、会の性格上これらいくつかを兼ねている方も多くいます。インターカレッジ運営委員会は、わが国のコンピュータ音楽を扱っている大学の教員が核となって、その学校の学生間の相互交流をはかるためのコンサートおよび研究発表の場です。

音楽を言葉で語ることをいさぎよしとしない音楽家もいますが、JSSA は、コンサートとは別に言語表現により音楽を社会に伝えていくことの重要性を信じて、その役割を担っています。皆様も今回の発表会を通じてこのような活動に興味を持ちましたら、まず <http://www.jssa.info/> をご覧ください。

演奏者 Profile



石丸 由佳 Yuka Ishimaru

◆オルガン

新潟市出身。東京藝術大学オルガン専攻卒業、同大学院修了。安宅賞、アカンサス音楽賞、同声会賞、及び大学院アカンサス音楽賞受賞。オルガンを廣野嗣雄、廣江理枝、チェンバロを大塚直哉、鈴木雅明の各氏に師事。2007年度横浜みなとみらいホールオルガニスト・インターンシップ・プログラムを三浦はつみ氏の下で修了。デンマーク王立音楽院にてハンス・ファギウス氏にオルガンを、ヨーテボリ大学にてクラヴィコードをジョエル・スペースストラ氏に師事。デンマークのオルガン・ソリストディプロマ取得。文化庁在外派遣員としてドイツ国立シュトゥットガルト音楽・演劇大学に在籍しルドガー・ローマン氏に師事、ドイツ国家演奏家資格を取得。2010年、第22回シャルトル国際オルガンコンクールで優勝、併せて Dane&Polly Bales Prize (ベストプレイヤー・オブ・J. アラン) を受賞。翌年よりフランス・ドイツを中心に、ヨーロッパ 10 カ国以上に渡る各地音楽祭に招待されコンサートツアーを開始、シャルトル大聖堂やバリのノートルダム大聖堂、マドレーヌ寺院等でリサイタルを行う。2014年にはレナード・スラットキン指揮/リヨン管弦楽団の日本ツアーに同行。その他シュトゥットガルト州立管弦楽団や神奈川フィルハーモニー等とも共演。また地元新潟のテレビ、各地ラジオ局、NHK ラジオ等に出演し、オルガン音楽の普及にも努めている。2015年、オルガナム・クラシックスより CD デビューを果たす。HP : <http://yukaishimaru.pecori.jp/index.html>



今村 初子 Hatsuko Imamura

◆オルガン

ボストン・ニューイングランド音楽院留学。北ドイツ国際オルガンアカデミー、スイス・ロマンティエ国際オルガンアカデミー、スペイン・ダロッカ国際古楽アカデミー、スペイン政府の奨学金を得て国立サラマンカ大学等ヨーロッパで研鑽を積む。2000年イタリア国際オルガンアカデミーに招待され、シエナでリサイタル。スペイン・サラマンカ大聖堂で国際親善協会主催オルガンコンサートほか2回リサイタル。また、イタリア・ジェノバ、ピストイア、アメリカ・ボストン、シアトル、東京等各地でリサイタルを行う。小林研一郎指揮名古屋フィルハーモニー交響楽団、藤原歌劇団合唱部、森麻季氏などオーケストラ、合唱団、声楽、弦楽器、管楽器とも多数共演している。1996年ゲラルデスキ賞、1997年白川賞、2000年ピストイア賞(最優秀賞)、2006年岐阜市芸術文化奨励賞、2008年白川特別賞受賞。2012年には、天皇后両陛下岐阜県美術館ご視察で、オルガンのご説明と御前演奏を行った。現在、中部学院大学オルガニスト、同大学短期大学部講師。



室住 素子 Motoko Murozumi

◆オルガン

東京大学文学部美学芸術学科在学中、合唱団の演奏会を行なった教会でパイプオルガンと出会い、その音色に魅了されてオルガンを始めた。東京芸術大学音楽学部器楽科(オルガン専攻)に入学、秋元道雄、H. ビュイグ＝ロジェ、Z. サットマリーに師事。安宅賞受賞。同大学院修士課程修了。1989年から97年まで、水戸芸術館音楽部門主任学芸員を務め、「市民のためのオルガン講座」に対して故吉田秀和水戸芸術館館長賞受賞。その後、活動の場を東京都交響楽団、NHK交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、サイトウキネンオーケストラへと広げた。サン＝サーンス:交響曲3番、ブーランク:オルガン協奏曲をはじめ、オルガンが入るオーケストラ作品のエキスパート。2008年R. エリシュカ指揮大阪フィルハーモニー交響楽団とのヤナーチェク:グラゴルミサ、09年C. アルミンク指揮新日フィルとのシュミット:7つの封印を有する書などのソロでも評価を高め、10年小澤征爾指揮サイトウキネンオーケストラの一員としてブリテン:戦争レクイエムをカーネギーホールにて演奏した。小澤征爾音楽塾講師(2006年)、水戸芸術館「市民のためのオルガン講座」講師、日本オルガニスト協会会員。



野村 祐子 Yuko Nomura

◆箏

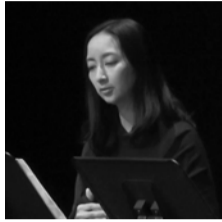
幼少から箏に親しみ、3歳で初舞台。14歳より作品を発表、現在90余曲を公刊CD化。箏ソロリサイタル、野村峰山(尺八)とのジョイントリサイタル、正統社定期公演「春の公演」、正統社合奏団コンサートなどを開催。父・野村正峰作品のソリストとして各地で演奏、流派を越えて作品を広めるほか、オーケストラとの共演、NHK FM放送・TV「芸能花舞台」、学校関係や長栄座での指導など、本拠地名古屋から全国的に活躍。NHK邦楽技能者育成会卒業。名古屋市民芸術祭賞、名古屋市民芸術奨励賞など受賞。2002年、野村正峰より正統社二代家元を継承。愛知県立芸術大学、現代邦楽作曲家連盟、正統社合奏団主宰・正統社二代家元。



岡野 勇仁 Yujin Okano

◆アコーディオン

東京音楽大学ピアノ科卒業。リサイタルのほか、南米音楽演奏、美術家や詩人、ダンサーとの共演、紙芝居、フリーインプロヴィゼーション、クラブミュージックやエレクトロニクス、アートプロジェクト、日本やアジアの歌の演奏など類例をみない多彩な活動をおこなう。「フォルマント兄弟」の作品「NEO 都都逸」「せんだいドドンパ節」をキーボード演奏にて「夢のワルツ」をMIDIアコーディオン演奏にて世界初演。フォルマント兄弟の合成音声歌唱作品をMIDIアコーディオンやMIDIキーボードで演奏している世界でも唯一の演奏家。



さかい れいしゅう Reisiu Sakai

◆ソプラノ

武蔵野音楽大学にて声楽を佐伯真弥子氏に、IAMASにてアルゴリズムミックコンポジションを三輪真弘氏に師事。三輪真弘作曲のモノローグオペラ『新しい時代』(2000)で主演、透明感のあるソプラノヴォイスと独特の存在感で注目を集める。様々なアーティストとコラボレーションを行い、声をテーマに活動。



伊藤 めぐみ Megumi Ito

◆クラリネット

名古屋市出身。桐朋学園大学音楽学部卒業及び東京藝術大学大学院修士課程修了。大学院在学中に文化庁新進芸術家海外留学制度在外研修員としてフランスへ留学。これまでに、クラリネットを熱田敬一、三界秀実、二宮和子、磯部周平、山本正治の各氏に、フランスではジェローム・ジュリアン＝ラフェリエール、アレクサンドル・シャポー、ニコラ・バルディールの各氏に師事。現在、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉クラリネット奏者。また、現代音楽や即興など様々なジャンルの演奏活動を行うほか、後進の指導も積極的に行っている。

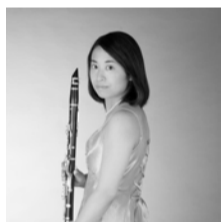


photo by Kenji Mori

鈴木 生子 Ikuko Suzuki

◆クラリネット

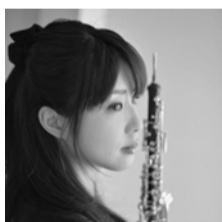
東京都立芸術高等学校(現、東京都立総合芸術高等学校)、東京藝術大学音楽学部卒業後、マンハッタン音楽院にて修士号、アムステルダム音楽院にてバスクラリネット修士号を修了。藝大、マンハッタン音楽院では、ソリストに選ばれオーケストラと共演。藝大卒業後には、同声会新人演奏会、クラリネット新人演奏会に選ばれ出演。霧島音楽祭に参加し、奨励賞、グローバルユース賞を受賞。アンサンブル・コンテンポラリー・α、オプロークラリネットアンサンブル、NYリコリッシュアンサンブルのメンバー。東京都立総合芸術高等学校講師。



櫻田 はるか Haruka Sakurada

◆クラリネット

国立音楽大学卒業 ヤマハ新人演奏会出演
桐朋オーケストラアカデミー研修課程及び研究科修了後渡仏、ヴェルサイユ地方国立音楽院及びパリ12区立音楽院修了
第3回ヤングクラリネットティストコンクール入選、第3回東京音楽コンクール入選、第2回クラリネットアンサンブルコンクール一般B部門第1位
これまでに、武田忠善、堀川豊彦、三界秀実、鈴木良昭、J.Julien-Laferriere、P.Cuper、N.Baldeyrou、A.Chabodの各氏に師事



山口 裕加 Yuka Yamaguchi

◆オーボエ

香川県出身。桐朋学園大学音楽学部を卒業、同研究科修了。和久井仁、巖崎耕三、浦丈彦の各氏に師事。ソロ・室内楽の他、客演奏者として主要オーケストラ公演、収録に参加。NHK、フジテレビなどをはじめ、テレビ番組等のスタジオワークも多い。

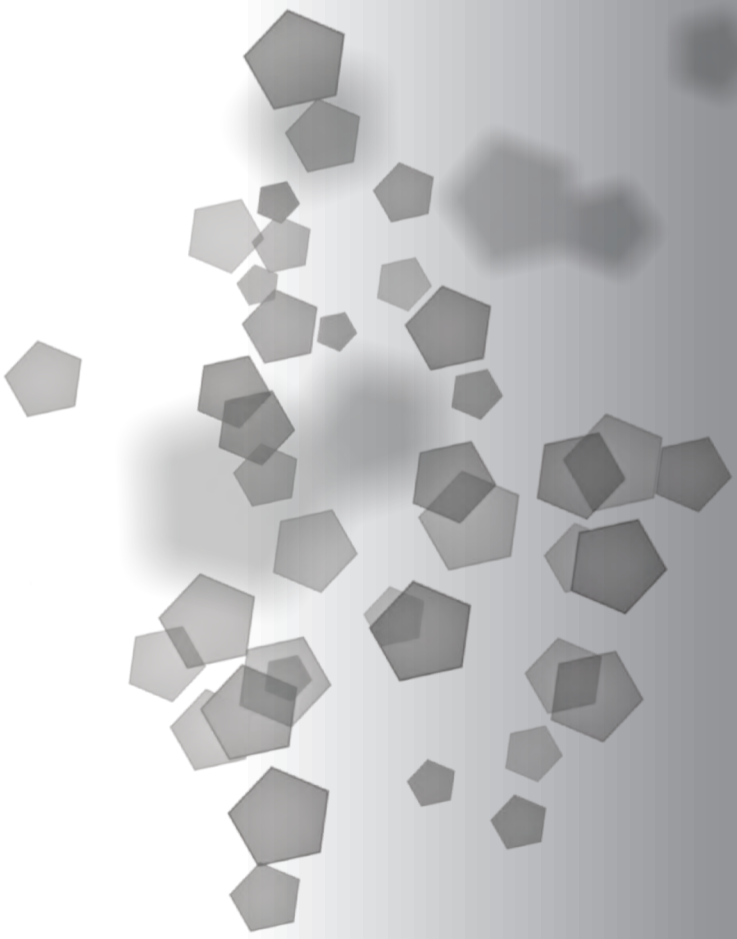


濱地 潤一 Junichi Hamaji

◆サクソフォン

作曲家・サクソフォン奏者 サックスを津上研太氏に師事。[賞歴] 福島論 + 濱地潤一《変容の対象》: 第17回文化庁メディアアート芸術祭「アート部門」審査委員会推薦作品 選出





日時：2015年9月12日（土）

会場：サラマンカホール

協力：情報科学芸術大学院大学

名古屋市立大学芸術工学部

名古屋学芸大学メディア造形学部

九州大学感性融合デザインセンター

プロデュース：

古川聖（JSSA/JSEM）、由雄正恒（JSEM）

オルガン作品コーディネート：

水野みか子（JSSA/JSEM）

音響・ステージマネージ：

鈴木悦久（JSSA/JSEM）

谷口友帆（名古屋学芸大学 / 名古屋市立大学）

飛谷謙介（関西学院大学）

音響助手：

村橋歩音、太田仁美、新沼奈美、高井翔太（以上、名古屋学芸大学）

パンフレット制作：

水野みか子（JSSA/JSEM）、小野美知瑠（名古屋市立大学）